

〇〇〇株式会社取締役、〇〇〇株式会社取締役社長故 〇〇〇〇殿の御霊前に
謹んで告別のことを申し上げます。

あなたは去る〇月下旬心臓発作のため入院せられたのでありますが、日頃は頑健そのものようなあなたに接しておりました私どもは、入院なさったおりに、遠からずご回復になるものとばかり信じておりました。そんな矢先、突然のあなたの訃報に接し、ただただ驚き、呆然としてしまい、どうしていいのかなすところもさだまらぬありさまであります。

御発病以来、日夜看護に没頭してこられた奥様はじめご遺族のご心中はいかばかりかと、お察しするに余りあるものがあり、お慰めする言葉もございませぬ。

あなたは、昭和〇年〇〇県にお生まれになり、昭和〇年三月〇〇〇〇大学経済学部を卒業されて、すぐに〇〇株式会社に入社され、〇〇〇〇製造所勤務課に勤務されました。まもなく本社労政部より〇〇〇〇に移られその後、〇〇製造所、〇〇所と一貫して労務畑を歩まれ、わが国の産業界において、企業経営の基盤となる健全な労使関係の確立に尽力してこられました。その功績は多くの企業経営者がおしみなない賞賛を送るところでございます。

昭和〇年〇月当社の前進である〇〇株式会社に移られたのでありますが、昭和〇年〇月〇〇〇〇が設立されると同時に人事部長に挙げられ、昭和五十三年には、内外の興望を担って取締役に列せられました。

それ以来、積年の豊富なご経験と優れた識見をもって経営の枢機に参画せられ、昭和〇年には常務取締役、〇年〇月には専務取締役に昇進され、そののち、平成〇年〇月には〇〇〇〇の取締役のまま〇〇〇〇の社長に就任せられたのであります。

あなたは、温厚篤実、悠揚迫らざる風貌と暖かい包容力をもって人に接せられ会社の内外において、あなたに対する信望は、厚いものがありました。

あなたが〇〇〇〇の社業の発展に寄与せられた御功績はまことに大なるものがあります。特に〇〇〇〇の発足よりこの方、実に二十年の長きにわたり一度として争議の発生を見たことがないという当社の誇りとする労使関係は、あなたが終始、誠心誠意、事に当り、情熱をこめて一途に労働条件の改善、社員の福祉向上に心を砕いてこられた賜物であります。

あなたは〇〇〇の社長に就任せられて以来、日夜経営に御苦心せられたのでありますが、昨年の後半頃よりは御努力が実を結んで業績もようやく好転し、黒字基調が定着しつつあり、加工品工場の増設計画等も緒につきつつあります。現在、あなたは卒然として長逝されました。まことに痛惜の極みであります。

バブル崩壊後の厳しい状況下において、文字どおり会社の存亡を賭けてあなたと辛酸を分かち合ってまいった私といたしましては、まことに片腕を失った感じが致しております。

しかしながら、あなたが最後まで思いを致された〇〇〇〇〇〇の事業は後に残りました。私どもの手で守り、必ずや立派に発展させてゆく覚悟であります。

今後、奥様はじめご遺族の皆様には私共として出来得るかぎりお力にならせて戴きたく存じますので、なにとぞご安心下さる様お願いいたします。

かぎりない惜別と哀悼の意をこめて、ここに〇〇〇〇の合同社葬の礼をもってあなたをお送りいたします。どうか安らかにお眠りください。

平成〇年〇月〇日

葬儀委員長

〇〇〇〇株式会社

社長 〇〇〇〇〇